

かわべ

発行 河辺村公民館
編集 館報編集委員会
電話 (089339) 2017
佐川印刷 KK
吉田町北小路 2-0600

河辺村人口動態
(S. 54. 3月 1日現在)
世帯数 612
人口 2,269
男子 1,145
女子 1,124
(S. 50. 10. 国調)
世帯数 666
人口 2,368
(S. 45. 10. 国調)
世帯数 718
人口 2,810

統合五年目を迎えた河辺中学校では、三月十七日に四七名の卒業生が希望に胸をふくらませて巣立っていきました。

卒業生も昨年度より一〇%少なく、次第に減少の一途をたどっています。

その進路状況をみると、進学者は全日制、専修学校を含むと六四%、定時制を含むと八五%で、昨年七五%あったものが減少しました。

コース別では普通科希望が七〇%、県下の進路状況と同じ傾向です。

本年度は、職業訓練校へ三名進学しました。技術を身につけてから就職するというのも昨年とは違った傾向です。

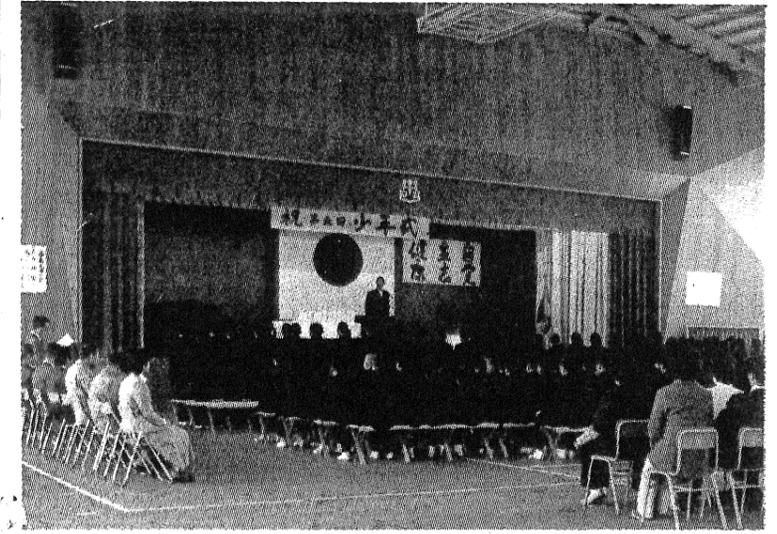
最近では、高校卒業生にもこのような傾向が見られ、この訓練校希望者も増加して中学生にとっては訓練校も狭き門となりつつあります。

就職者については、昨年より増加して県外へ五名の生徒が就職しています。

五日の「少年の日」に先がけて去る二月三日、河辺中学校において「少年式」が厳粛に行われ、この日、満十四才を迎えた二年生四十一名(男子十九名、女子二十二名)が「自覚、立志、健康」を決議しました。

式典では黒田校長や来賓からそれぞれ激励のあいさつがあり、これに對し代表者の山崎彰君が「立志の誓い」を述べ、また松田郁子さんも「母に学ぶ」と題する作文読み、あらためて十四才としての「自覚」を促して式典は終了しました。

記念品としては「アルバム」が贈られ、又この日を全校生徒で祝うために「紅白まんじゅう」が全員に配られています。



決意あらたに少年式 —41名が立志を誓う—

五日の「少年の日」に先がけて去る二月三日、河辺中学校において「少年式」が厳粛に行われ、この日、満十四才を迎えた二年生四十一名(男子十九名、女子二十二名)が「自覚、立志、健康」を決議しました。

式典では黒田校長や来賓からそれぞれ激励のあいさつがあり、これに對し代表者の山崎彰君が「立志の誓い」を述べ、また松田郁子さんも「母に学ぶ」と題する作文読み、あらためて十四才としての「自覚」を促して式典は終了しました。

記念品としては「アルバム」が贈られ、又この日を全校生徒で祝うために「紅白まんじゅう」が全員に配られています。

表1 進路状況

性別	進路 卒業生数	進学者数		就職率		進学者数		進学率	
		(全日制) (専修学校)	%	就職者数	%	(定時制)	%		
男	25	19	76	6	24	1	17		
女	22	11	50	11	50	9	82		
計	47	30	64	17	36	10	59		

表2 職種別就職状況

性別	職種	職種							
		大工	看護婦	美容	紡績	店員	機械工	計	
男		3	0	0	0	2	1	6	
女		0	2	1	8	0	0	11	

贈らない
受け取らない
選挙を実現しよう

四月二十二日は
村議会議員(長)選挙の
投票日です

河辺に生を受けた私が、親元を離れて早くも二十四年にもなります。現在大洲に自宅を構え、松山市の愛媛県教育センターに勤務しております。

河辺の生活で今でも心に焼きついておられることは、校舎が全焼して仮校舎で不自由な生活をおくった河辺中の三年生です。

仮校舎(植松の公会堂)の一年生百二十四名の全員を詰め込んでの学習、設備や教員なども全く不備で実験学習をしたことはほとんどありませんでした。遊ぶにも運動場すらなく、動きのつれない教室で級友と談笑するのが唯一の楽しみでした。

坂本小学校の仮小舎(校舎)に移った分校生活も同様で低学力の中学校としての汚名を返上するとはできませんでした。

しかし、このような不自由な土俵上での生活はかえって私の心に自立心と忍耐力を育て、苦しみ負けない根性を培ってくれました。今ではそのような境遇はもうありません。

ようです。人間は動くことによって今日の世界を築いてきました。どんなに学力がすぐれていても動かない子に将来どんな活躍が期待できるでしょうか。幸い河辺には動物性を培うのに適した恵まれた自然環境があります。その環境を生かして真面目に働く河辺の子どもを育ててほしいものです。

「裏山の嶺線をかえて一人て山草刈りに出かけた。帰りにゴーゴーと響き渡る山風にかげのなきみしさを覚え、うす暗い杉林を突走り、雉木林を駆けぬけ、岩をかむ溪流をこぼこえて一目散に家路を急いだ。」これは中学時代の日記の一部です。ふるさとを遠くをめぐりながら自然の中に溶け出したドラマは、年々ともに心によみがえりなつかしさを覚えてくるものです。騒々しい連日の生活の中で心をいやすくれるのはふるさとの自然がかもし出してくれた数々の思い出です。

村人や村を転出していった人々の心に生きるふるさとの美しい自然をいつまでも残してほしいものです。

ふるさとに
望む

大洲市 上久保 政 男

昔の生活様式が一目で

—資料室近くお目見え—

このほど、旧大伍小の教室を一部もろろがえして、昔の農機具類や生活用具などを一堂に集め展示するところになり、河辺村民俗資料室として近く公開される運びになりました。

この調査、収集については文化財保護審議委員会を中心として各部へ出向き、みなさんの御理解御協力によって、「寄贈」または、「一時の保管委託」をお願いしています。

しかし、資料室としてぜひ欲しい品がまだ多く出品されていない現状ですので、特に次のものについての御協力をお願いします。

- 土製の土瓶、空色の茶瓶
- カンチヨロ、たい松台
- 系図、古い領収証、免状
- 紙すき道具類
- 石割道具、鋤、火葉入、尻すけ
- 水車、五右衛門風呂
- 紋付羽織袴、夜着、箱枕、高枕
- 真綿ボシ
- 鉄製の鏡、火鉢、香籠、燈籠
- 種子油しぼり機
- その他、もろくの情報をお待ちしています。

おねがい—
※貴重品は村へ「保管委託」または「寄贈」の方式をとっていただきますので安心して出品ください。
※委員が訪ねた時は蔵や物置などを見せつけて下さい。
※古い家を処分の際には、公民館(Tel: 21017)へご連絡ください。

テレホンサービスの案内

大洲四一五〇〇番(無料)はあなたのためのテレホンサービスです。

電話マナーなど録音テープでお聴かせしております。

放送内容は毎週月曜日に変わりますのでお気軽にダイヤルしてみてください。

大洲電報電話局

やねばし

あるカーブを回るとくの字型の瓦がき階建の堂々たる新築の住宅が目をついた。

「たいした住宅ですな、どこを見てもようできると感心する。老婆は「つまらぬ家です、昔から腹は立てやすいが家は建てにくいと言いますらいな」と。

なるほど、腹をたてやすい人がいると家はいつもわがしいが、一家円満で働けば家も建つわけか……。

▲雀さき「ニールの材料で巣を作るのか？」

▲鳥獣に年々に一度は巣をつくる。人間という万物の霊長は一生に一度程度つくる家に苦勞する。

▲女房と畳は新しいほど気持ちがいいとか……。「この言葉あまり通用しては困るのだが、新しい畳新しい家に住む人は幸せ者で苦勞の花が咲いた感じであろう。」

▲物は有限心は無限。名言だがいっとうに精神文化は開かれそうにない。

▲物は時がたつと段々古ぼけてくる中には古くなるほど光を放つ文化財等もある。

過去の生活文化があつてこそ今日の輝やかな文化がある。

▲これ若き人々の心すべき点か。

▲物体、肉体は時と共に老化するところが人間世界には新年というのがある。

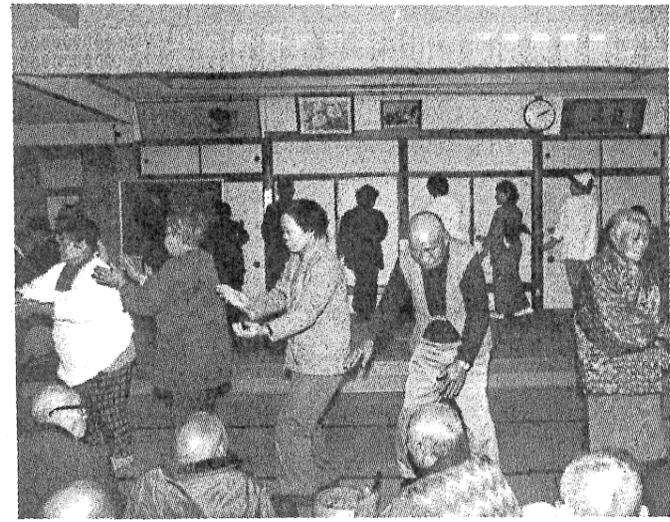
▲新年の意義は心を新に、生活、計画を新たにすること、神社仏閣に初詣するの心を新たに、その人なりに努力することに意義がある。

▲家は新しく建てなくとも、心を新たに新しい畳の上に住むことも不可能ではない。

▲それにしても「腹たてる」はクワバラ。

お年よりの待つ白山園へ ことしも婦人会が慰問

二月九日、婦人会員一行二十三名が白山園ホーム(白山園)の慰問を行い老人と共に一日を過ごしました。「おじちゃん元気がなかった、また来たよ」と会員の呼びかけに、この日を待ちかねていたかのように涙を流して喜ぶ老人達。今年も各分會が、つきたてのやわらかい餅とミカンの贈りものをし、午前中はきちんと整理された老人の部屋を訪ね、日頃の園内生活の話



おとしよりと一緒に踊る婦人たち

なごに耳を傾けました。ある老人は「ここへ来てからは洗たくもしてもらい、毎日栄養のあるものを食べさせてもらうので元気がなりました」ととても喜んで話を聞いていました。午後には、婦人会の歌やおどりを聴いて笑い合ったり、なごやかなうちに時間も過ぎる年の再会を約束してホームを後にしました。

中国視察訪問をおえて

村長 稲田三温

「無から有へ、小を大へ」の精神にゆだねる国民性

中国では石炭、鉄鉱石等の資源は豊富にあるが工業開発は大変おくれたるようである。

この工場を視察しても決して能率面はよいとはいえないが、さぼっている者はまったくない。職場内の壁には「先人に比較せよ、そして学べ、共に助け合っ

て追いつくことだ。そして追いつくべきではない。」と大きく書いてあり、また「無から有を得小なるものは大にせよ」との名言が記してあった。

農業には八十五歳の人口が従事し、生産大隊本部の壁には(一)土作り(二)有機肥料(三)水利排水(四)種子改良(五)合理栽培(六)消毒防除(七)肥料管理の機具整備と書いてあり、仕事は小隊ごとに前日決

自然を生かした観光めざす

観光推進協議会が発足

本村における観光は、自然の景勝地をもちながら推進できていないのが現状で、このままではせっかくの資源が埋もれてしまう恐れから、昨年九月二十一日、河辺村観光推進協議会が発足しました。委員会の構成は役員、村議会、教育委員会、その他関係団体の代表者十七名で構成され、会長には大森高知氏、副会長に稲森雅生氏が選出されました。

また当日は、県の観光係長鳥山氏を招いて「これからの観光のあり方等」について指導いただき、午後には村内の観光資源を確認するために村内の文化財及び自然景勝地を見て回り、今後の施設整備のあり方や方向づけについて話し合いました。

◎今後の観光推進計画として

- (一)清流を利用したアマガサがけ行われてからアマガサ料理が大変好評で、村外からの観光客も多くなる観光資源として期待され、一方、川へも放流を行い釣人の誘致も考えています。
- (二)特産物を生かした観光と景勝地に植樹をし、遊歩道、休憩施設案内板、衛生施設、キャンプ場等の整備。
- (三)動物保護施設として「日本鹿」の導入飼育や龍王神社附近の整備。
- (四)市民のレクリエーションの場として「公園づくり」の整備等。

以上のような計画を立てて、家族で楽しめる施設の整備を今後すすめていきたいと思います。

河辺村観光推進協議会事務局

中国視察訪問をおえて

村長 稲田三温

現在、友交の増加する中国ではホテルが不足して、予約が一年前でないといけない状態だ。

早朝、目をさまして十一階の窓から街路を見おろすと、数十名の子供が講義を受けている光景を見た。

小学生は赤いネッカチーフを首に巻いて「赤小兵」といって、中学は赤い腕章をつけて「赤衛兵」と呼ばれており、それぞれ試験に合格した優れた者で、将来の指導者としての教育特訓を学校時間外に受けているのだという。

また、商店街の静けさはほんとうに驚いた。売上金がお店のものになるせいから、日本のように店員が熱心に勧めたりはしない。専門店は漢字で書いてあるのでも不便はなく、特に観光客用の友誼商店という所ではお土産専門品を扱って便利を計っている。

また、十三代の王の墓のうち定陵が発掘されて一般に土中深く公

野菜をたくさん食べましょう

野菜をこる工夫を考えよう
農家で食べている野菜で食べていないのが野菜です。

野菜はビタミンA、C、カルシウム、鉄の補給源として重要なばかりでなく、酸性体質の改善、便秘の予防、肥満対策などにも必要不可欠なものです。

野菜不足の原因は忙しいという理由から、野菜料理をつくる手間がない、おいしい食べ方を知らないなどがあります。

およその目安として、毎日三食とも一人が片手に軽く乗るくらい野菜を食べ、そのほか清物、果物、みそ汁にも野菜を使うことです。

- 一、野菜の正しい食べ方
 - (一)保存を上手にして、水洗い後はしっかりと水を切り、パリッとした状態で使うことです。
 - (二)生野菜は食べる寸前まで水につけておき、水を切ってマヨネーズのほか酢醤油、みりん、醤油、レモン汁、ケチャップ、木の芽、酢みそ、からしなど味つけします。
 - (三)油いためは十分に熱してから、油を入れて野菜を入れて手早くいためます。
 - (四)ゆでる時は、沸騰したお湯に塩を入れ、ゆで過ぎないようにし、青菜は冷たい水に放ちます。
 - (五)下味の二つとしては、サラダや合え物ゆでで熱いうちに塩で薄く味つけします。
- このように料理するためにも年間を通して野菜がいつも食べられるように計画的に作りましょう。
- 隣近所で相談し、種類を分担して計画的に作り採れた物を交換しあうのもよいでしょう。
- 区画を分け、同じ畑に連作しないように栽培層をつくっておくと便利です。トマト、ピーマン、ナス、エンドウ、サトイモ、スイカは連作できません。
- 作つたに堆肥、石灰をたっぷり施す力をつけるよう心がけましょう。
- (大洲農業改良普及所)

ちかごろ思うこと

天神 山本エツ子

親が線路を敷いてやるのではなく、線路を敷く手伝いをしてやるのが子供にとってどんなに大切なことであるか、いつか新聞で読んだことがあります。

私は、この言葉をいつまでも心にためておきたいと思っています。「言うはやすし行は難し」この言葉がうらやましく思うようにはいけません。

私の家も昨年は、長男の大学受験というたいへんな年でしたが、なんとか志望校に入学できました。現在は平穩無事な毎日を送っています。子供には物事を押しつけるのではなく、まず理解してやるのが大切だと思います。

一男の高校受験も二年後に控えており、いろいろな出来事などが次から次へと私を襲ってくるのでしよう。

毎日、薄水を踏む思いで過してしまっても、現在の幸せがいつまでも続くことを祈る気持でいっばいしよう。

短歌

里芋の丘の底におくつゆめ
ひねもす消えず山かげにして
関井恵美子

うれしさを言葉ならぬ外孫は
日ねもす吾にまつわりており
清水 菊江

葉がぐれの雷ふくらむ寒椿
明日は咲かんと夫はつぎやく
清水 菊江

祖先より長く伝わる小山田も
時代と共にかわる淋しき
部族をうけて交わす盃
(故) 真田 秋重

ありがたや酒のむの味を
酒よりもうまい酔いぎめの水
上林ヨシ子

無表情に横臥している病む老いの
前に座しお言葉さかしくつ
忍耐の字を胸に秘め孤独なる
日々送らむと老婆語りぬ

消息

- (出生おめでとう) 山本 武夫 中村加代子
- 川崎 父 武夫 中村加代子
- 日其川 敏 土居泰典
- 栄 建一 松本達也
- 植松 意忠男 松本 太
- (死亡お悔み申し上げます)
- 植松 藤原シゲル 八十四才
- 露内 山本惣市 八十四才
- 国木 幸田シナ 八十八才
- 帯江 山ノ内友雄 六十八才
- 上名場連 高橋治平 八十才
- 横山 河内綱次郎 八十四才

自 53・12
至 54・3・10 11